

当病院での音楽療法に参加して

医療法人社団 アルテバラン

手稲いなずみ病院

4階病棟課長 大石 一枝

今回、当病棟で音楽療法を行っていただき、その時の感想を「絆」に掲載のご依頼がありました。今まで掲載の機会もなく当初は戸惑いましたが、この音楽療法によって、当院の患者さまが、とても心地よい有意義な時間を過ごすことが出来ましたことに感謝申し上げたく、お引き上致しました。



日本ALS協会北海道支部の方々とのご縁は、現在、当院で入院加療中のNさんが以前、日本ALS協会北海道支部長をされておりましたNさんの面会にいらしていた会員のEさんとの出会いからでした。

「彼のために何か出来ることがあればしてあげたい」とEさんからお言葉がありました。お話ではNさんは音楽好きであること、音楽療法をされている某短期大学の先生とお知り合いであることを伺いました。また、お知り合いの先生は「病棟が可能であればNさんの病室で音楽療法をしてあげたい」と話されていることもお聞きしました。

NさんはALSが進行し、人口呼吸器を装着している状態でベッド上の限られた空間の中で日々過ごされております。他の患者さまも入院という非日常的な生活を余儀なくされ、病と闘っております。その様な患者さまが少しでも癒され、楽しいと思える時間を過ごしていただくことを願い、是非お願いしたいと申し出ました。

当日まで、担当していただく先生と私どもで時間調整を行い、他の患者さまもNさんの病室に集まり、小さなコンサートを開催することが出来ました。

先生が歌い、ギターなどの楽器が演奏されるとNさんをはじめ病棟の患者さまは、感動され涙する方、体でリズムを執りだす方、一緒に口ずさんで歌いだす方、リクエストする方など、見ている私たちも嬉しく胸が熱くなりました。

翌朝、病室を訪問しますと患者さまより、「あの音楽の先生は、次はいつ来てくれるの」。普段良く眠れないと訴えていた患者さまからは「昨日は、すごく良かったね。なぜか良く眠れたよ。僕、昔から音楽を聴くことが漉きなんだ」という言葉が聞かれたのです。



私たち看護者は、患者さまの喜ぶ笑顔が一番の宝物です。音楽療法は、その笑顔を自然に生み出すものであり、辛いことを一時でも忘れさせてくれる効果があると思いました。患者さまの言葉ばかりでなく、嬉しそうな笑顔や感動する姿から実感することが出来ました。

今後も機会がありましたら、お世話になりました皆様にお出でいただき、たくさんの方々に感動を与えていただきたいと切望いたします。そして感動を頂くとともに、この音楽療法の良さ、素晴らしさをもっと広く知ってもらいたいと思います。

本当にすばらしい時間をありがとうございました。
心から感謝申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。

